

2023

同友しずおか

8

VOL.537

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」
「企業も地域もよくなった！」

私の逸品

(株)木佐森

夢を叶える環境がここにある！
木佐森で仕事とレースを両立
させよう



Suzuka 8 hours
FIM Endurance World
Championship

木佐森 大介氏(志太支部)

～互いに支えあい、励ましあい、援けあう～
私たちは地域にあってよかったと言われる同友会であり続けます



静岡県中小企業家同友会



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 経営の成功体験しか聞けない
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 将来の会社のビジョンができた
- 指示待ち社員ばかり
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人々が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きょうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1079 名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
かつまた 勝又 りょうへい 遼平	(株) YSK ライフコンサルタンツ 金融商品仲介アドバイザー (株式・投資信託・債券の運用アドバイス、証券会社との仲介業務)	御殿場	石山美歌/ HPより申込
かとう 加藤 ゆうすけ 佑輔	ヤマカ(株) 産業廃棄物処理、解体工事	富士宮	簗 威頼
まつなが 松永 たかひろ 貴大	(株) SUN 管工事業、飲食業 (管工事、焼肉店)	榛南	鈴木 茂/ HPより申込
むらた 村田 きょういち 京一	(株)村田組 建設業 (足場工事)	榛南	鈴木 茂
ちく 知久 てつや 哲也	(株)知久ホールディングス 惣菜の製造・販売	浜松	江間 省豪

名義変更による新名義人 (敬称略)

氏名	社名・事業	所属支部	旧名義人
かとう 加藤 たかし 卓	富士宮信用金庫 金融業 (預金・融資・為替取引)	富士宮	岩崎 勲

※新会員の写真は e.doyu 「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyu からのご確認をお願い致します。



夢を叶える環境がここにある！ 木佐森で仕事とレースを両立 させよう

(株)木佐森 (志太支部)

代表取締役社長 木佐森 大介氏



レースは全員が主役

右肩あがりの日本経済とともに
成長し、平成の不景気に突入

(株)木佐森は、日本全体が好景気で沸き立つ1980年に創業しました。段ボールシートの運搬からスタートしましたが、浜岡原発に象徴される大型の施設の建築が続くなか、重量がある鉄骨やコンクリートの成形物の運搬に強みを発揮しました。しかし、その後続く不景気の中で、重量物の運送需要が急激に減少します。現社長の木佐森大介氏が入社した1992年は、会社が仕事を求めて自動車部品の運送や倉庫内での作業請負などに事業範囲を広げ変貌していく時期でした。



レーサーとして出場した鈴鹿8耐

夢を叶える環境を作り出す

学生時代からバイクでレースに出るのが唯一の趣味だった木佐森氏は、レースに関われる環境を作れば、仕事と夢を両立できる職場であるとアピールでき、人材不足のトラック業界にも人が集まるのではないかと考えます。『木佐森で仕事とレースを両立させよう！』というキャッチコピーを作りホームページなどに掲載。劇的な反応こそありませんでしたが、その結果現在でも、トラックドライバーをしながら世界耐久選手権鈴鹿8時間耐久レース（以下、鈴鹿8耐）に出てくれるレーサーが在籍しているとのこと。鈴鹿8耐はコロナ禍等で3年間中止が続きました。ようやく昨年より再開され、今年も木佐森氏のチームも参戦しますが、木佐森氏はレーサーを引退して監督となりチーム全体の指揮を執ることになります。このようなイベントを継続していく中で社内には、レースはもちろんとして、自分の夢や家族の夢を実現するためなら全社員でサポートする環境が整っていきました。まさしく、チームワークが醸成され



左から村松氏・木佐森氏・大池氏

る環境が出来上がりました。

仕事とプライベートのバランス が取れる環境づくり

トラック協会以外の経済団体とは縁がなかった木佐森氏を同友会に誘ったのは、同業の松葉秀介氏（松葉倉庫(株)・志太支部）でした。それまで、経済団体との付き合いが無かった木佐森氏は同友会の例会に参加する中で、他業種の経営者の考え方を聞く意義を感じたそうです。「トラック業界に押し寄せる2024年問題など、運転手を雇用する環境は厳しさを増すばかりです。そんな中で(株)木佐森は仕事とプライベートのバランスをずっと前から追及してきた歴

史の強みがあります。稼ぎたい人に仕事と高賃金を提供してきた業界でしたが、プライベートの夢を叶える環境を提供する業界のほうで、永続できるように思うのです」と語る木佐森氏からは、言葉以上に自分が作ってきた同社の文化に対する誇りを感じます。「2023年8月6日に開催される鈴鹿8耐レースでは、過去最高の23位を上回る成績を残すつもりで出場します」とレースのことを語る時、木佐森氏は無邪気で楽しそうでした。

取材・記事：村松繁氏

(アイマーク(株)・志太支部)

取材：大池盛二郎氏

(南カントリーフ静岡・志太支部)

(株)木佐森

〒421-0304 榛原郡吉田町神戸1437-4

TEL：0548-32-0090

URL：http://www.kizamori.co.jp/

創業 1980年

社員数 55名（うちパート1名）

入会年月 2023年4月

事業内容 貨物自動車運送業、倉庫業、
各種作業請負

幾多の困難から得た経営スタイル

(株)ふじよし
取締役 岩本 浩周氏 (御殿場支部)



岩本 浩周氏

突然の倒産により無職に、仲間と共に創業へ
御殿場市で観光バス事業を行う(株)ふじよし。岩本氏の前職の会社が突如倒産したことをきっかけに、

一緒に働いていた同僚たちと一念発起し起業したことが創業のきっかけだと言います。1年目はお客様も様子を伺っており、なかなか依頼につながらず厳しい状況が続きましたが、前職の会社で繋がり



今後の展望を語る岩本氏

のあったお客様から少しずつ声がかかりはじめました。ところが、軌道に乗り始めた矢先に、東日本大震災が発生。地震発生当時、岩本氏は修学旅行のバスを運転し東京デイズニールランドにいましたが、交通網が麻痺し帰ることができなくなりました。その時は、生徒たちを安全に帰すことを第一に最善を尽くし、結果として誰一人欠けることなく、学校に戻って多くの予約のキャンセルが発生しましたが、復興ボランティアの輸送を受け、何度も被災地に足を運んだと言います。そこで多くの惨状を見て、考えさせられることが多かったと話します。

コロナ禍になって

東日本大震災の後、様々な方の協力や銀行の融資などにより、ようやく状況が好転してきましたが、その矢先に発生したのが新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛。当初は状況を少し軽く見ており、雇用調整助成金や補助金で何とか耐えましたが、度重なる感染拡大で観光産業が長期停滞し、厳しい状況に陥ってしまいました。しかし、この時も地元ホテルの社員輸送や、企業の送迎バスの手配をいただき、なんとか業務を維持

し繋ぐことができたと言います。ようやく今年の5月から様々なものが解禁となり、日々の忙しさが戻ってきました。思い返せば一難去ってまた一難でしたが「踏ん張り慣れしちゃって」と笑いながら話せるまでになったようです。

入会のきっかけは、ゴルフ？

同友会への入会は、たまたま誘われたゴルフで同じチームになった会員から、大阪府で運送業を営む(株)宮田運輸の宮田博文氏を招いての講師例会に誘われたのがきっかけでした。同社の、子どもの絵を車輪にラッピングする取り組みは以前より興味深く感じており、よい機会と思いオプザーバー参加講演後、気づいたら入会申込書を書いていたそうです。入会後は多くの学びを得て、新しい繋がりが増え始めています。

今後の展望について

(株)ふじよしの考え方として「お客様全員を、無傷で送り届けて、無事にご帰宅させること」を一番大切にしている岩本氏。そのためには、まず安全であることを大前提に、設備・バス・人への投資を積極的に行っていると語ります。



ピンクのラインが鮮やかな車両



安全を何よりも大切に

(株)ふじよし

〒412-0048 御殿場市板妻582-16
TEL : 0550-88-5030
URL : <http://www.fujiyoshi-kankoubus.co.jp/>
創業 2007年
社員数 14名
入会年月 2023年4月
事業内容 一般貸切旅客自動車運送業

取材：石山美歌氏
(ラウンジジャシール・御殿場支部)
片野貴一郎氏
(株)モスク・クリエイション・御殿場支部
取材：記事：鈴木翔也氏
(株)トップ 御殿場営業所・御殿場支部

会員訪問記

「経営指針」で社員に会社の未来をしめす

(株)矢部製作所
代表取締役 田中 有行氏 (榛南支部)



田中 有行氏

シャッターカバーなど金属製品を一貫生産

牧之原市で金属製品製造業を営んでいる(株)矢部製作所。同社は1973年に創業し、総勢145名の社員と共に、鉄・アルミ・ステンレスの板金加工、シャッターカバーケース・製茶機械部品・空調部品等の一貫生産を行っている会

社です。本社工場で住宅用シャッター部品やステンレス製の業務用エアコン部品の製作を行っている第一製造部。三和シャッター静岡工場内のラインで住宅用シャッターの組立を行っている第二製造部。第三製造部は、製茶機械部品・精米関連機器の農業用機械部品や配電盤BOX、食品機械部品等の製作を行っています。金型製



工場内を説明する田中氏

造部は、他工場での板金加工品製作にあたり必要とされる治具の製作やプレス成型の金型製作・修理を行っています。今回は、第三製造部のある菅ヶ谷工場を訪問しました。

失敗を赤裸々に語る姿に感銘を受け入会

専務だった田中有行氏は、2015年に義父の跡を継ぎ代表取締役役に就任。社員間のトラブルや社員との関係性に悩み、増田工業(代表取締役 増田貴士氏・榛南支部)の会長からの紹介で翌2016年に同友会に入会しました。伊藤義康氏(イトウシャディ(株)・榛南支部)が報告した例会に参加し、失敗談や苦労話を報告者や先輩経営者が赤裸々に話している姿に感銘を受け、会に積極的に参加することで、自社の悩みが解決できるのではと思ったそうです。

経営指針を創り、社内で発表するも…

自社を見つめなおし、経営理念

がないことに気付いた田中氏は「経営指針があれば社員の気持ちがかまると」と考え、すぐに経営指針を創る会に参加。2018年1月、3つの工場それぞれで自身の経営指針発表会を行いました。田中氏の思うようには行かず、退職者を出してしまう結果に。年代の違いからくる社員同士の対立や、若手社員のモチベーションの低下、上手いかな技術継承など、様々な課題に対し、社員を巻き込み一丸となって目標に向かうために必要な経営者の力とは何かと悩むようになったと言います。

社員145名全員の前で指針発表会

それから5年が経ち、「先の見えないコロナ禍で会社の未来を社員が気にしているのではないのか?」今こそ、会社・自分を見直すべき



社員全員が参加した経営指針発表会

ではないか?」と思い、今年の3月、今度は会場を借りて、工場ではなく、社員145名全員の前で指針発表会を行いました。社員アンケートを実施した結果反省すべき点もあったそうですが「社長の考えている会社の未来像が聞けてよかった」などの感想も挙がり良かったと言います。「経営指針書は社員を安心させ、迷ったときに見直すツールである。発表会を今後も続けていくと共に、同友会活動を通じて経営者としての資質を磨き続けていきたい」と力強く語ってくれた田中氏でした。

取材・記事：中村秀和氏
(中村醤油(株)・榛南支部)

(株)矢部製作所
〒421-0512 牧之原市大江1359-1
TEL：0548-52-3121
URL：http://www.yabe-ss.co.jp
創業 1973年
社員数 145名 (内パート15名、技能実習生38名)
入会年月 2016年3月
事業内容 鉄・アルミ・ステンレスの板金加工、シャッターカバーケース・製茶機械部品・空調部品等の一貫生産

中小企業家同友会全国協議会第55回定時総会 時代の転換期こそ変革のチャンス！ 静岡同友会からは32名が参加

7月13・14日（木・金）、中小企業家同友会全国協議会（略称…中同協）第55回定時総会が埼玉で開催されました。本総会のテーマは「今こそ同友会理念の実践で地域と中小企業の未来を創りあげよう」時代の転換期こそ変革のチャンス」。当日は全47同友会と中同協から約1100名（静岡32名）の会員が参加しました。

1日目の全体会では開催地埼玉を代表して太田代表理事から「時代の転換期こそ変革のチャンス。今こそ同友会理念の実践を通じて中小企業の未来を展望する総会にしましょう」とあいさつがありました。その後、主催者を代表して広浜中同協会長、来賓からは大野埼玉県知事をはじめ3名よりあいさつがありました。続いて、中山中同協幹事長より総会議案の提案が行われ、16の分科会に分かれ各社・各県の実践事例を学びながら議案を深めました。

2日目の全体会では、総会議案・予算の採択をおこない、中山中同協幹事長から①時代の転換期だからこそ同友会運動の原点に立ち返ること、②地域との関わりを持つことの重要性、③人を生かす経営の総合実践を広げることの3点に関して補足報告がありました。最後に総会宣言が読み上げられ、満場一致で採択されました。

その後の特別講演は「中小企業の役割と魅力」中小企業家同友会への期待」をテーマに、独立行政法人中小企業基盤整備機構の豊永厚志理事長が登壇。「中小企業の存在意義や魅力などに関する正しい理解を広く醸成する」ことを目的として制定された「中小企業の日」（7月20日）と「中小企業魅力発信月間」（7月の1ヶ月間）。これらをより広く全国に広げるにあたり、改めて中小企業の存在意義や役割、魅力に加えて中小企業家同友会への期待をお話しいただきました。

続いて、事例報告では沖縄と大阪の2同友会より「中小企業の日」に関する取り組みを報告。試行錯誤を続けながら行政や関係機関との協力関係を構築し、中小企業の魅力を発信していることが共有されました。最後に次回の開催地を代表して宮城同友会より閉会挨拶をし2日間にわたる総会が締めくくられました。

続いて、事例報告では沖縄と大阪の2同友会より「中小企業の日」に関する取り組みを報告。試行錯誤を続けながら行政や関係機関との協力関係を構築し、中小企業の魅力を発信していることが共有されました。最後に次回の開催地を代表して宮城同友会より閉会挨拶をし2日間にわたる総会が締めくくられました。



全体会の様子

【第11分科会】

（株）山崎製作所 山崎かおり氏が登壇！

静岡同友会から、第11分科会の報告者として山崎かおり氏（県副代表理事／静岡支部）が登壇。「町工場の技術と多様な感性から生まれた自社ブランド」をテーマに報告しました。2011年の女性経営者全国交流会（静岡開催）で報告してからなんと11年ぶりに全国の舞台で板金屋としての自社の成長と進化を語った山崎氏。その報告内容と、座長の梶川久美子氏（サツマ電機（株）・女性部会長／沼津支部）によるまとめの一部をご紹介します！

多品種小ロットを得意とする板金加工業で、1967年に父が創業しました。私は1991年から経理として入社、当初会社を継ぐ気はありませんでした。2008年にリーマンショックで会社が苦しい状況になった時、先代から「会社を清算しようと思う」と言われ、廃業の危機に。会社をずっと守ってきたくれた社員への感謝の気持ちもあり、自分が継ぐことを考え始めました。

小学校の同窓会で偶然会った井上斉氏（ワシロック工業（株））に誘われたことをきっかけに同友会に入会し、すぐに経営指針を創る会を受講。その頃は父と衝突を繰り返す日々でしたが、同友会の先輩から会社を継ぐ側の想いを教えてもらい、父が築いてきた会社と想いをしっかり繋いでいきたいという気持ちを伝え、本格的に事業承

継が進んでいきました。

社員の本音が知りたいと思い匿名のアンケートを取ったところ「うちの会社はお客様の奴隷だ」などの回答が返ってきました。また「親戚に恥ずかしくて板金屋に勤めているなんて言えない」といった声も聞こえてきました。それがきっかけとなり、私の経営の目的は「社員の誇りを取り戻す」ことだと明確になりました。板金職人は恥ずかしい仕事ではない、技術も高い、地域の産業を支える素晴らしい仕事だと知ってもらいたいと思いました。そのためにはまず社員全員参加型の会社を作ると決意し、4年かけてみんなで経営理念を作成しました。また、夢と誇りを持てる仕事をつくらうと2015年、自社プロダクトブ



報告者山崎氏（左から4番目）、座長梶川氏（左から3番目）と静岡からの参加者



自社プロダクトブランド「三代目板金屋」の「KANZASHI」

ランド「三代目板金屋」を立ち上げました。板金職人の技術が結集したオリジナル商品の「KANZASHI」、SNSやブログで一生懸命発信をした結果数々のメディアで紹介され、職人のモチベーションになっていきました。また、購入してくださったお客様からの言葉が私たちの大きな原動力になっています。

2015年から自社プロダクトに集中するために同友会を5年ほど離れていましたが、2021年に県副代表理事の役職をいただき、同友会活動に戻りました。同友会は私にとって経営の原点です。戻る場所であり、自身の足りない部分をフォローしてくれる仲間がいる場所であり、全国のネットワークで勉強できる場所です。現在、新工場をオープンファクトリーとして、多くの一般の方にも見学してもらえようなプロジェクトを進行中です。モノづくりを身近に感じてほしい、そして技術を継承しこれからの職人を育てていきたいと思っています。

〈座長まとめ〉

座長：サツマ電機(株) 梶川久美子氏

報告の学びを3点にまとめました。まず1点目は、「よい会社をつくる」「よい経営者になる」「よい経営環境をつくる」このステップの総合実践です。社員をパートナーと考え、本音で語りあう、そして社長が社内ですら「心をオープンに」できるか。社員の意見を真剣に聞き取り、受け入れ、様々な意見がある中で受容と融合力をどこまで広げていけるかが社長の器だと感じました。

2点目は、行動力・実践力です。行動力と学んだことを実践することが大きなポイントだと思います。また、その行動力で各団体や企業との連携を進めていくことが良い経営環境づくりに繋がることを学びました。

3点目は、経営の目的、視座の高さです。時代の変化が速く複雑な中で、時代の変化に合わせて事業を変えていくときに「儲かるか、儲からないか」ではなく「社員の誇りを取り戻す」という一番の原点を大切にしています。経営者として、どれだけ視座の高い経営の目的を掲げられるか、そして社員にどれだけ分かりやすく伝えられるかが大切です。また、外部環境の変化が激しい中で、社員がいきいきと誇りを持って働くための「人を生かす経営」をどう実践するか。新たな方向性や新しい視点、様々なものを融合しながら、方向性を決める経営者のプロデュース力が求められると改めて認識しました。

参加者感想

静岡から第4分科会に参加した参加者からの感想をご紹介します。

企業変革支援プログラムVer.2実践への再挑戦

「企業変革支援プログラムVer.2」(以下、Ver.2)ってご存じでしょうか？私自身も以前学ぶ機会を得たものの未だ実践に至らず、再挑戦の想いも込めて第4分科会に参加しました。報告者3名はいずれも中同協経営労働委員会Ver.2の制作に大きく関わってきた方で、Ver.2を自社で実践した上でのポイントとして「社員と一緒に働かないとダメ」が挙げられました。「ならばどのように社員を巻きこんでいったか？」という質問については「経営者が、必要だからやるという意思を持つことが大事」といった回答があったのが印象的でした。その後のバズでは「Ver.2を活用して自社や各同友会をどう変革したいか？」について語り合い、例年チームのヒントとしての活用や会員増強のツールとしての活用、多くの会員が参加登録したデータを地域毎の政策提言に繋げるなど多くの活用案が語られました。これから自社での実践を目指す私にとって、大いに励みとなる貴重な経験となりました。



眞 邦幸氏

眞 邦幸氏
(株)マコト電機・
富士宮支部

県障がい者問題委員会
東部関係機関との意見交換会
7月21日(金) プラサヴェルデ

7月21日(金)に障がい者問題委員会東部関係機関との意見交換会を開催し、会員、オブザーバー、特別支援学校教諭、障がい者就労支援機関から合わせて29名が参加しました。6月の中部開催に引き続き、沼津市の会場にて東部地区の意見交換会として開催。グループごとに分かれ、「障がい者雇用について」をテーマにお互いの課題や取り組みを幅広く意見交換しました。各グループのまとめとして、「学校卒業後に就職しても社会になじめず早々に離職してしまうケースが多くある。働きやすい環境づくりはもちろんのこと、就学中に会社見学や実習を増やして社会との接点を増やしたり生徒の「得意」を見つけてもらうことがマッチングや定着に繋がるのではないかな」などの意見がありました。また、「一度は社会に出たものの様々な事情で働けずにいる就労困難者についても、企業含む社会全体でサポートして自己肯定感を高めたり自信をつけてあげることが必要」との意見もあり、すべての人が生き生きと働ける社会にするために大切なことを深め合う時間となりました。今回は、西部地区意見交換会を9月22日(金)に藤枝市文化センターで開催予定です。



8月 17日(木)	榛南納涼例会 (18:30 うおとも)
18日(金)	第20期経営指針を創る会 第5講 (19:00 ペガサート)
19日(土)	沼津納涼例会 (18:00 FDIバンケットホール)
20日(日)	三島納涼例会 (14:00 ゆうゆうホール)
21日(月)	第6回全県経営フォーラム実行委員会 (17:00 ZOOM)
22日(火)	2023組織強化・会員増強全国交流会 (14:00 オンライン) 県例会企画委員会 (18:30 ZOOM)
23日(水)	伊東納涼例会 (18:30 モンターニャ) 志太納涼例会 (18:30 藤枝グランドボウル)
24日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) 県組織増強委員会 (17:30 同友会事務局&ZOOM) 富士例会 (19:00 富士市交流プラザ)
25日(金)	イントロセミナー (19:00 同友会事務局&ZOOM) 中遠納涼例会 (19:00 BUCKET HERE & CORNER)
28日(月)	静岡県経済産業部との意見交換会 (15:00 同友会事務局)

30日(水)	県経営労働委員会 (ローカルベンチマークと経営デザインシートの作成勉強会) (19:00 同友会事務局)
31日(木)	県総務財務委員会 (16:00 同友会事務局)
9月 2日(土)～ 3日(日)	第20期経営指針を創る会 第6講 (9:00 沼津市大手町会館、プラサヴェルデ)
7日(木)	県正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
8日(金)	富士宮例会 (19:00 志ほ川バイパス店&ZOOM)
11日(月)	第20期経営指針を創る会 第7講 (19:00 未定)
12日(火)	静岡例会 (19:00 ペガサート)
13日(水)	御殿場例会 (19:00 エピスクエア)
14日(木)～ 15日(金)	第51回青年経営者全国交流会in広島 (13:00 広島国際会議場ほか)

《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》



オリエンテーション『同友会を使い倒そう 新プロジェクト始動』 同友会の活かし方を学びあう！

7月28日(金) 参加：24名 同友会会議室&ZOOM

今年度より新たにはじまった同友会オリエンテーション。第1弾が同友会会議室とZOOMのハイブリッドで開催されました。当日はこれから入会する方、入会して間もない方、最近同友会に参加できていなかった方など多様な参加者が集まりました。はじめに主催者を代表して井上齊代表理事があいさつ。その後、参加者全員から自己紹介がありました。

続いて「同友会と自社経営を語る」をテーマに小松寛氏 (㈲ヤマカ水産 代表取締役/沼津支部) が報告。変化する経営環境や食文化の中で干物屋を継続することに悩んでいた時、同友会での学びや仲間との出会いが転機となり「干物屋に生まれた使命を貫く」決意ができたと話しました。報告後には「自社で抱えている課題」をテーマにグループ討論を実施。業種や年齢、企業規模も会歴も関係なく学びあう同友会の魅力を体験する時間となりました。

最後に松葉秀介代表理事から「イントロセミナーは同友会を知る場として開催してきたが、オリエンテーションは課題をベースにした同友会の活かし方を学ぶ場として今後も開催していきたい。新会員だけでなく多くのご参加をお願いします」と総括がありました。

オリエンテーションは11月に第2弾を開催予定です！同友会の活かし方を改めて確認し「よい会社」「よい経営者」「よい経営環境」をめざしていきましょう！



小松 寛氏